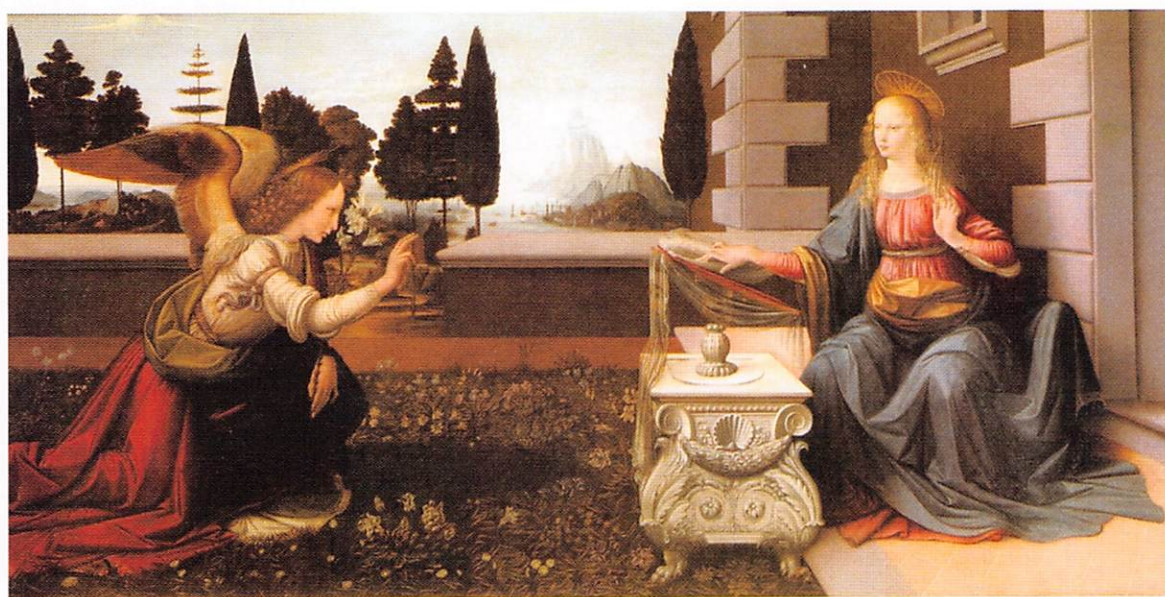


浜松バッハ研究会 創立25周年記念

クリスマス・コンサート



レオナルド・ダヴィンチ作 受胎告知

2010年12月23日(木・祝)

カトリック浜松教会聖堂

主催：浜松バッハ研究会 共催：豊橋バッハアンサンブル

後援：浜松市 (財)浜松市文化振興財団 豊橋市 (財)豊橋文化振興財団

静岡県合唱連盟 浜松市合唱連盟 中日新聞東海本社 静岡新聞社・SBS 静岡放送

ご挨拶

皆さま、クリスマスおめでとうございます。本年1月のアクトシティ中ホールでの「メサイア」全曲公演に引き続き、創立25周年記念演奏会第2弾として、このクリスマスコンサートを企画致しました。年末のお忙しい時期にもかかわらず多くの皆様にお運びいただき誠に有難うございます。

バッハ生誕 300 年の 1985 年に設立された浜松バッハ研究会の活動開始から早四半世紀が経ちましたがこの間マタイやヨハネの両受難曲、ミサ曲口短調などの大曲を手掛けてまいりました。また 2000 年から 2001 年の世紀の変わり目を実施したドイツ演奏旅行では、バッハとヘンデルゆかりの地で演奏致しました。なかでもライブチヒでは世界的に知られた聖トマス教会合唱団に代わり、私共が礼拝での演奏を受け持つという大きな榮譽を与えられました。そしてその重責を全うできたことは何物にも代え難い一生の思い出であります。

思い起こせばこの地に初めてオラトリオ演奏の活動が芽吹いたのは 37 年前のことで、浜松バッハ研究会の前身であるポリフォニカ・アンブロジーナが初めての演奏会を開いたのが当時成子町にあったこのカトリック教会でした。今もこの教会の信徒会館にある素晴らしい聖フランチェスコの聖画の下で歌ったのがまさに本日演奏するマグニフィカート(マリアの賛歌)でありました。非常に感慨深いものがあります。

本日は我が国オペラ・オラトリオ指揮者としてトップランナーである三澤洋史先生のご指導のもと、バッハの名曲とともに先生ご自身が編曲されたクリスマス聖歌メドレーも演奏致します。皆様どうぞごゆっくりお楽しみください。

最後になりましたが、本日の演奏会開催にあたり、ご協力・ご支援いただいた皆様に会員一同、深く感謝申し上げます。また、この素晴らしい場をお与えいただいたカトリック浜松教会の山野内公司神父様、小原雅子様他多くの皆様方に心より御礼申し上げます。

浜松バッハ研究会代表 河野周平

プログラム

指揮：三澤 洋史

各曲の演奏に先立ち、指揮者より解説が行われます

J. S. バッハ ブランデンブルク協奏曲 4番 G-Dur BWV 1049

第 1 楽章 Allegro
第 2 楽章 Andante
第 3 楽章 Presto

Violin: 北川 靖子 リコーダー: 長瀬 正典・徳永 隆二 Cembalo: 日向 めぐみ

J. S. バッハ マグニフィカート(マリアの賛歌) Es-Dur BWV 243a (第一稿)

独 唱： Soprano I 大谷 知佳子 Soprano II & Alto 三輪 陽子
Tenor 西垣 俊朗 Bass 河野 真剛

== 休憩 20 分 ==

三澤洋史編 クリスマス・メドレー 管弦楽付き改訂版 初演

第 1 集 ひさしく待ちにし むかしむかし東の国では
 さやかに星はきらめき Ave Maria
第 2 集 ひいらぎかざろう ああベトレヘムよ もろびとこそぞりて
 やみじになやめる 来ませ救い主
第 3 集 まきびとひつじを あめのみつかいの しずけき
 来たれ友よ (Adeste)

ソプラノ独唱：大谷 知佳子

出演者 プロフィール

指揮者：三澤 洋史（みさわ ひろふみ）



群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。1984年ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。バッハに深く傾倒しており、マタイ、ヨハネ両受難曲、口短調ミサ曲など全て暗譜でレパートリーに有する。2000年暮れから2001年初めにかけての浜松バッハ研究会ドイツ演奏旅行では、エアフルト、ハレでの口短調ミサ曲成功に加え、ライプチヒ聖トマス教会の新年音楽礼拝を聖トマス教会聖歌隊に代わり務めた。1999年より2003年までバイロイト音楽祭にて祝祭合唱団の指導スタッフの一員として従事。この経験を生かし、ワーグナーのスペシャリストとして講演や放送の分野でも活躍。2001年9月からは新国立劇場合唱団合唱指揮者に就任。新国立劇場の全公演に合唱指揮者として関わる。2003年9月からの一年間は音楽ヘッド・コーチも兼任。音楽を伴うあらゆる様式の音楽に精通。言葉と音楽、ドラマと音楽の接点を追求している。作品にミュージカル「おにころ」「愛はてしなく」「ナディーヌ」などがある。東京芸術大学、愛知県立芸術大学、京都教育大学非常勤講師や、名古屋芸術大学客員教授、及び滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール専任指揮者などを経て、現在新国立劇場合唱団指揮者、洗足学園音楽大学客員教授。東京バロックスコラズ音楽監督、浜松バッハ研究会、志木第九の会、名古屋モーツァルト200合唱団常任指揮者。

ソプラノ：大谷 知佳子（おおたに ちかこ）



新潟大学教育学部特設音楽科卒業。浜松声楽・呼吸法研究会会員。
浜松シテリオペラ協会会員。ヴォーカルグループ茶夢メンバー。
浜松と進女声コーラス、浜松市立伎部小学校、北浜中学校PTAコーラス指導。
2004年浜松交響楽団「市制記念日を祝う音楽の集い」に出演。
静岡AOI第10回「静岡の名手たち」オーディション合格・出演。
浜松声楽研究会および浜松シテリオペラ協会の主催するコンサートに出演。
田代雅子氏に師事。

メゾ・ソプラノ：三輪 陽子（みわ ようこ）



愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。
第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣オーディション最優秀賞受賞。2008年文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演に「エレクトラ」第2の下女、「愛怨」影巳、「カヴァレリアルスティカーナ」ルチア、「西部の娘」ウォークル、「ワルクキューレ」シュヴェルトライト役で出演。またコンサートでは、マーラー「大地の歌」、ベートーヴェン「第九」のソリストを務める。宗教曲の分野では、バッハ「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」「ハ短調ミサ」「ミサ・プレヴィス」、ヴェルディ「レクイエム」、ドヴォルザーク「レクイエム」、ロシーニ「小荘厳ミサ」などでアルトソリストとして活躍している。二期会会員。

テノール：西垣 俊朗（にしがき としろう）



大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータ、オラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。特にバッハの「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等のエヴァンゲリスト歌いとして高く評価されている。1978年、79年、84年、90年と4回にわたり名テノール、エルンスト・ヘフリガー氏と「マタイ受難曲」で協演。84年、85年には日本オラトリオ連盟のソリストとしてヨーロッパ各地で演奏し好評を博す。その後もクリストファー・ホグウッド氏、ヘルムート・ヴィンシャーマン氏、アグネス・グロスマン氏等の指揮のもと、内外で演奏している。オペラの面でも東京と関西で活躍しており、特にモーツァルトとロシーニのオペラの主役には定評がある。昭和59年度 神戸市文化奨励賞、平成6年度 兵庫県芸術奨励賞受賞。
浦山弘三、エルンスト・ヘフリガーに師事。関西二期会会員。
大阪音楽大学、京都女子大学各講師。

バリトン：河野 真剛（かわの なおたか）



浜松市生まれ。幼少の頃からボーイソプラノとして浜松バッハ研究会の演奏に参加。
バリ音楽院(CNR)ピアノ科、声楽アンサンブル科卒業。プレスト・ピアノコンクール1位受賞。
リヒテル夫人であるニーナ・ドルレアク教授に見出され、モスクワでの声楽レッスンを勧められる。
モスクワ音楽院声楽科本科を日本人として初めて卒業。同時に声楽伴奏科も卒業し、クラスニー・ディプロムを授与される。A.ナウメンコ、P.スクスニチェンコの各氏に師事。ヤング・ブラハ国際音楽祭(チェコ)、グリーンカ生誕200周年音楽祭(ロシア)、ケルチェット音楽祭(イタリア)等に出演。
「静岡の名手たち」2007年度オーディション合格。オペラでは2007年と2008年に「ラ・ボエーム」ショナール役、2009年に「蝶々夫人」ヤマドリ役、「愛の妙薬」ベルコーレ役等に出演した。合唱団「歌うエスカルゴ」、浜松シテリオペラ協会合唱団指導者。二期会・二期会ロシア歌曲研究会・日本演奏連盟各会員、ヤマハミュージック東海浜松店講師、浜松学芸高校芸術科講師



北川靖子

コンサート・ミストレス : 北川靖子 (きたがわ きよこ)

W. シュタフォンハーゲン教授に師事。東京藝術大学卒業。1971年、オーストリア国立ウィーン音楽大学入学、ヴァイオリンを F.サモヒール教授に、室内楽を F.ホレチェック教授に師事。1975年、ウィーン音楽大学を全教授一致の最優秀で卒業。ザルツブルク・ミラベル宮殿、東京でリサイタル。1976年、ハンブルク交響楽団に入団、コンサートマスターに就任。1981年、ハンブルク市文化局主催コンサートでリサイタル。1985年12月～91年12月、姉・北川暁子と25回の「ドウオのタベ」を開催。1987年、東京でリサイタル。1989年、北川暁子、千本博愛と「セルヴェ・トリオ」を結成、以後毎年演奏会を開催。1992年以降は北川暁子との「ソナタのタベ」を毎年開催している。現在、2001年11月に高松に設立された瀬戸フィルハーモニー交響楽団コンサートミストレス。浜松バツハ研究会・管弦楽団には1985年の創立以来、ほとんどの演奏会に参加。



オルガン : 花井 淑 (はない とし)

名古屋音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専修卒業。大学在学中より名古屋・カトリック五反城教会に於いてパイプオルガンの勉強を始め、オルガンを住山久爾子、本多七瀬、故 F.ボーンの各氏に師事。また、Z.サットマリー、故 A.シェーンシュテット、H.フォーゲルの諸氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982年～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、カトリック五反城教会オルガニスト、東京福祉大学非常勤講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会、日本リードオルガン協会、立教大学教会音楽研究所友の会、名古屋バロック音楽協会各会員。ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。浜松バツハ研究会の演奏会には1996年の「マタイ受難曲」以来、ほぼ毎回参加し、2000年暮れから2001年初頭にかけてはドイツ演奏旅行にオルガニストとして同行し、ライプチヒ・聖トマス教会の新年音楽礼拝で演奏した。



チェンバロ : 日向めぐみ (ひゅうが めぐみ)

ウィーン国立音楽大学学修。第4回浜松新人演奏会出演。ウィーンフィル、ウィーン交響楽団メンバーとも共演。浜松室内楽愛好会との共演、日本赤十字病院内コンサート、香隠コンサートを、毎年定期的に行っている。その他、浜松を中心に、ソロ、室内楽など演奏活動中。現在、浜松学芸高校芸術課程【音楽】講師。



リコーダー : 長瀬 正典 (ながせ まさのり)

信愛学園高等学校音楽科(現・浜松学芸高等学校芸術科音楽課程)、東京藝術大学音楽学部器楽科サクソフォン専攻卒業。静岡大学大学院教育学研究科音楽教育学修士課程修了。大学在学中にリコーダーコンテストソロ部門第1位受賞。NHK教育テレビ「ふえはうたう」出演。これまでにサントリーホールデビューコンサートをはじめ、数多くの演奏会に出演。東京混声合唱団(指揮:林光)と共演した「鳥のうた」はCD化されている。現在では自身によるリサイタルをはじめ、国内外で幅広いコンサート活動や講習会、コンクール審査員やワークショップを展開。2008年にはオーストリア・ザルツブルグコンサートツアーにて吉沢実氏とペーター・M. ラックナー氏と共演。現在、浜松学芸高等学校芸術科音楽課程、常葉学園短期大学音楽科非常勤講師、静岡県教育委員会文化出前講座講師。文化庁「学校への芸術家等派遣事業」講師。リコーダーを中川友彦、矢沢千宜、吉沢実の各氏に師事。



リコーダー: 徳永 隆二 (とくなが りゅうじ)

九州芸術工科大学(現・九州大学芸術工学部)、同大学院修了。現在は楽器メーカーにてリコーダーの製作に携わる。また、積志リコーダーカルテット、18世紀アンサンブルに所属し、積極的にリコーダーの活動を継続中。



ピッコロ トランペット: 松野 美樹 (まつの はるき)

1965年三重県四日市に生まれる。13歳より愛好家の手ほどきによりトランペットを始め、15歳より田中昭氏に師事、17歳より北村源三氏に師事し、1985年東京藝術大学音楽学部器楽科入学。在学中、北村源三氏に師事しながら、バツハカンタークラブにて小林道夫氏にバロック音楽の教えを受け、卒業後も薫陶を受ける。1989年に同大学を卒業。以来、フリーのトランペット奏者として、ソロ、オーケストラ、室内楽、吹奏楽等の演奏を積極的に行う。特に、バロック音楽の分野において明るくピュアで華やかな音色と色彩感のある音楽性で、ピッコロトランペット奏者、バロックトランペット奏者として各地において、ソリスト、及び客演第一奏者(バツハやヘンデル等の作曲家を中心とした作品)として活躍し高い評価を受ける。2000年に、弘前バツハアンサンブルのヨーロッパ公演にバツハの口短調ミサの客演第一奏者として参加、2002年には同アンサンブルのロシア公演に参加して好評を得る。2004年に名古屋フィルハーモニー交響楽団のヨーロッパ公演にエキストラとして参加。2007年にはソウルにて行われたヘンデルのオペラ「リナルド」にオーケストラ・カメラータ・アンティーク・ソウルの客演奏者として参加しバロックトランペットを演奏。2009年に再びソウルを訪れてメサイアをバロックトランペットにて演奏。2010年6月に横浜開港記念会館にてブランデンブルグ協奏曲第2番をバロックトランペットにて演奏。

オーボエ独奏 : 村瀬 正巳

チェロ・コンティヌオ独奏 : 神農 清志

浜松バッハ研究会・管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、カペラ・アカデミカ、ソナス・アンサンブル、浜松バロック協会、掛川市民オーケストラ、ヤマハ吹奏楽団などからバッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらずレベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

1 st Violin	北川 靖子	小澤 規子	篠田 侑香里	長谷川 悠
2 nd Violin	小野 弘達	田邑 利香	東儀 温	
Viola	五家 和夫	小林 勝	小林 はる奈	
Cello	神農 清志	小野 祐子		
Contrabass	田邑 元一			
Oboe	村瀬 正巳	大橋 弥生		
Flute	木村 伊都子	福家 真史		
Recorder	長瀬 正典	徳永 隆二		
Fagotto	曾布川 利貞			
Trumpet	松野 美樹	松本 真智子	庭田 俊一	
Timpani	今泉 好雅			
Percussion	山本 和彦			

浜松バッハ研究会・合唱団

バッハ生誕300周年の1985年に結成され、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、ミサ曲口短調などの大作や、クリスマス・オラトリオ、カンタータ、モテットなどを取り上げ、管弦楽団と共に上演している。2000年にドイツ演奏旅行を行いライブチヒの聖トーマス教会で演奏した。常任指揮者としてバッハの権威である新国立劇場指揮者の三澤洋史氏を招き、バッハの音楽を深く学びつつその魅力を多くの皆様にお伝えすべく、姉妹団体である豊橋バッハアンサンブルと共に活動を続けている。

練習指揮者	早川 美香		ピアノ伴奏者	日向 めぐみ	宮本 いずみ
Soprano I	河合 良子	木下 眞里	丹羽 多美子	早川 美香	
Soprano II	飯田 素子	今村 陽子	川瀬 綾子	中村 修子	溝田 照子 吉井 康子
Alto	阿部 恭子	門林 映美	金子 恒江	鬼頭 計枝	國井 みさえ
	杉山 潤子	鈴木 理恵	竹原 孝子	細倉 ゆずる	山田 セキ子
Tenor	門林 義幸	竹原 新太郎	丹羽 哲也	早川 徳次	
Bass	生駒 修治	河野 周平	溝田 博和	横山 茂	

豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理…という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身。毎週豊橋で練習し、三澤先生の練習があるときは、浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に参加している。

練習指揮者	田辺 菜美子		ピアノ伴奏者	高木 克子
Soprano I	金子 ますみ	白井 登枝江		
Soprano II	三宅 ゆりの	井戸 恵子		
Alto	安藤 美津恵	伊藤 道子	小林益世	浪崎 加代 彦坂 克美 馬淵 京子
Tenor	川口 強			
Bass	安藤 佑治	駒沢 真司	安井 研一	

演奏会スタッフ

ステージ・マネージャー	柴原 貞幸		ビデオ撮影	志村 憲宏
青木 真美	小串 寿子	白浜 太郎	鈴木 秀明	長谷川 明子 長谷川 正仁
松下 洋一	鈴木 洋一	萩野 潔	早川 桃代	丹羽 衛 丹羽 彩子 河野 善子

曲目解説

J.S. バッハ作曲 ブランデンブルク協奏曲 第4番 G-Dur BWV1049

バッハが作曲した6曲の合奏協奏曲のうち1曲であり、1721年5月24日にブランデンブルク＝シュヴェート辺境伯クリスティアン・ルートヴィヒに献呈された為にこの名がある。1丁のヴァイオリンと2本のアルトリコーダーから成る独奏楽器群(コンチェルティーノ)と、弦楽合奏団(リピーエノ)が対比される書法でつくられている。こうした編成の曲を「合奏協奏曲(コンチェルト・グロッソ)」といい、イタリアで発達した様式である。バッハは若いころ、ワイマールの宮廷でオルガニストやコンサートマスターを務めながら、ヴィヴァルディをはじめとするイタリアの協奏曲を熱心に研究した。この「ブランデンブルク協奏曲 第4番」は、その成果を遺憾なく発揮するとともに、バッハならではの高い精神性を盛り込んだ傑作である。演奏時間は約25分。

第1楽章はト長調 3/8拍子 Allegroで、牧歌的な曲であり、ソロ・ヴァイオリンに2本のリコーダーがきれいな響きを添える。

第2楽章はホ短調 3/4拍子 Andanteで、2本のリコーダーの半音階的進行とヘンデルのような曲調が印象的である。フリギア終止で3楽章へと続く。

第3楽章はト長調 2/2拍子 Prestoで、独奏楽器と通奏低音の4声のフーガ。様々なところに各楽器の魅力的なソロ、トゥッティが織り込まれている。

J.S. バッハ作曲 マグニフィカート 第一稿 Es-Dur BWV243a

(萩野 潔)

1. マグニフィカートとは

・聖書の中での位置付け ルカによる福音書1.46～55の、マリアが主を賛える一連の言葉です。ラテン語訳聖書では「崇める」という意味のマグニフィカート(Magnificat)という単語から始まるためこの通称があります。それまでのいきさつが書かれているその前の部分を要約します。

祭司ザカリヤは、彼の妻エリザベツが洗礼者ヨハネとなる子を宿したことを、主の御使いから知らされる。その数ヶ月後、今度はマリアが、救世主イエスとなる子を宿したことを御使いから知らされる。マリアがエリザベツに会いに行き挨拶をすると、ヨハネは胎内でおどり、エリザベツは聖霊に満たされてマリアを祝福する言葉を贈る。それに答えて、マリアは主を賛える言葉を述べる。

「私の魂は主を崇め、... アブラハムとその子孫に語られた通りです。」

教会暦の中にはこれを記念した「マリア訪問の祝日」(7月2日)というのがあり、ドイツ語マグニフィカートの別名のあるバッハのカンタータ第10番(BWV10)などがこの日に演奏されていますが、ラテン語によるこの一連の言葉は教会では伝統的に晩課で使われており、C.モンテヴェルディの晩課のための音楽「聖母マリアの夕べの祈り」の最後を飾ることはご存じの方も多いでしょう。

・音楽的な伝統 マグニフィカート用のグレゴリオ聖歌伝来の定旋律で有名なのが第9詩篇唱で、バッハは前出のカンタータ第10番でも使用していますが、このラテン語版マグニフィカートBWV243では10.Suscepitにてオーボエ(BWV243aではトランペット)が演奏するのみです。

2. 作曲の経緯

1728～1731年に完成したBWV243 二長調(用途不明)に先立ち、BWV243a 変ホ長調が1723年の降誕祭(クリスマス)晩課用に作られました。調性以外の相違は次の2点です。

・器楽編成 オーボエ・ダモーレがなく、3.Quia respexit～4.Omnes generationesはオーボエのままです。フルートも一切なく、9.Esurientesの助奏はリコーダー2本です。10.Suscepitは定旋律がトランペット、伴奏がヴァイオリンとヴィオラのユニゾンにて演奏されます。

・4つの挿入曲 クリスマス向きのドイツ語とラテン語による4つの挿入曲(A,B,C,D)と、演奏場所の指定があります。

3. 主な特徴

- ・他のバッハのラテン語宗教曲同様、ダカーポ形式の曲がありません。
- ・「ミサ曲口短調(BWV232)」同様、合唱は5声を中心となっています。
- ・言葉の各曲への分け方/各曲の曲想は、モンテヴェルディの晩課と多くの共通点があります。
- ・各曲が短く、非常に凝縮された印象を受けます。
- ・言葉の音楽的修辞(言葉の意味を音楽が具体化する)が見事になされています。

1. Magnificat 合唱

Magnificat anima mea Dominum.

私の魂は主を崇めます。

2. Et exultavit ソプラノ II 独唱

Et exultavit spiritus meus in Deo salutari meo.

そして私の霊は神が遣わされたわが救い主を喜び待ちます。

A. 合唱 (S-A-T-B)

Vom Himmel hoch da komm ich her,
ich bring euch gute neue Mär,
der guten Mär bring ich so viel,
davon ich singn und sagen will.

高き天より私は来て
おまえたちに良い新しい知らせをもたらそう。
良い知らせをたくさん持ってきたので、
私はそれらについて告げ歌おう。

3. Quia respexit ソプラノ I 独唱

Quia respexit humilitatem ancillae suae:
ecce enim ex hoc beatam me dicent.

この卑しい女をさえ心にかけてくださいました。
ごらん下さい、今からのち、私を幸いな女と言うで
しょう。

4. Omnes generations 合唱

Omnes generationes.

人々が子々孫々に渡って。

5. Quia fecit バス独唱

Quia fecit mihi magna,
qui potens est, et sanctum nomen eius.

主が私に大いなる事をしてくださったのは、
主が力ある方で、主のみ名は神聖であるからです。

B. 合唱

Freut euch und jubiliert,
zu Bethlehem gefunden wird
das herzliche Jesulein,
das soll euch Freud und Wonne sein.

喜び歓呼せよ、
ベツレヘムにて見い出された
心より愛しき幼子イエスを。
彼こそおまえたちの喜びであり至福である。

6. Et misericordia アルト・テノール二重唱

Et misericordia eius a progenie in progenies
timentibus eum.

主の憐れみは代々、
主をかしこみ恐れる者に及びます。

7. Fecit potentiam 合唱

Fecit potentiam in brachio suo,
dispersit superbos mente cordis sui.

主は御腕をもって力をふるい、
心の思いの驕り高ぶる者を追い散らされます。

C. 合唱

Gloria in excelsis Deo!
Et in terra pax hominibus bona voluntas.

いと高きところでは神に栄光あれ！
地上ではみ心にかなう人々に平和あれ！

8. Deposuit potentes テノール独唱

Deposuit potentes de sede
et exaltavit humiles.

権力ある者を王座から引き降ろし、
そして卑しい者を引き上げなさいます。

9. Esurientes アルト独唱

Esurientes implevit bonis
et divites dimisit inanes.

飢えている者を良いもので充たし、
富んでいる者を空しく帰らせなさいます。

D. ソプラノ I ・バス二重唱

Virga Jesse floruit,
Emanuel noster apparuit
induit carnem hominis,
fit puer delectabilis. Alleluja.

エサイ(植物の名)の若芽が花咲き、
私たちのエマヌエル(救い主)も現われたまう。
受肉されて人となられ、
私たちの喜びとなる。ハレルヤ。

10. Suscepit Israel 女声三部合唱

Suscepit Israel puerum suum,
recordatus misericordiae suae.

主は僕イスラエルを助けてくださいました。
憐れみをお忘れにならなかったからです。

11. Sicut locutus 合唱

Sicut locutus est ad patres nostros,
Abraham et semini eius in saecula.

私たちの祖先、
アブラハムとその子孫に語られた通り

12. Gloria Patri 合唱

Gloria Patri, gloria Filio,
gloria et Spiritui sancto!
Sicut erat in principio et nunc
et semper et in saecula saeculorum.
Amen.

栄光、御父にあれ、栄光、御子にあれ、
そして栄光、聖霊にあれ！
初めにありましたように、今も、
また世々に限りなくあらんことを。
アーメン。

三澤 洋史 編 クリスマス・メドレー

数多くのクリスマス聖歌から音楽監督の三澤洋史が厳選した 13 曲をソプラノ独唱、合唱、管弦楽、オルガン、チェンバロの為に編曲したもので第 1 集から第 3 集までである。イエス降誕の物語に沿って曲が配置され、クリスマスの時期に最高の演目といえる。今回は新たに管打楽器パートも追加された改訂版の初演である。

曲目は、ひさしく待ちにし、さやかに星はきらめき、ひいらぎかざろう、ああベトレヘムよ、まきびとひつじを、あめのみつかいの、しずけき(聖夜)、来たれ友よ(アデステ)などで、管弦楽には随所にバッハのマタイ受難曲やヘンデルのメサイアなど、名作のモチーフが組み込まれ、三澤洋史ならではの秀作との評価が高い。演奏時間は約 30 分。

クリスマス・メドレー 第 1 集

[ひさしく待ちにし] 讃美歌 94 番 12 世紀のラテン語聖歌 “Veni, veni, Emmanuel”

久しく待ちにし 主よ、とく来たりて
御民の縄目を 解き放ち給え
主よ 主よ 御民を 救わせ給えや

[むかしむかし東の国では] 讃美歌第二編 128 「世の人忘るな」 古いイギリスの聖歌 “God rest ye merry, Gentlemen”
歌詞は三澤洋史のオリジナルテキスト

1. むかしむかし東の国では 不思議な星 空に現れた
これこそ救い主の訪れを 告げる奇跡の星なのです
さあ 拝みに行きましょう
2. そこで三人の博士達は 黄金 乳香 没薬(もつやく)を手に
遠い国を目指して旅立つ 星を頼りにどこまでも行く
幼子はいずこに眠る

[さやかに星はきらめき] 讃美歌第二編 219 原曲: フランスのカロル “Minuit Chretiens” A.C.アダム作曲

1. さやかに星はきらめき 御子イエス生まれたもう
久しく闇路をたどり メシヤを待てる民に
新しき朝は来たり さかえある陽は昇る
いざ聞け御使い歌う 妙なる天つ御歌を
めでたし 聖き今宵
2. 輝く星を頼りに 旅せよ博士のごと
信仰の光によりて 我らも御前に立つ
馬槽に眠る御子は 王の王、主の主なり
我らの重荷を担い 平和を賜う為にと
来たれる 神の子なり

[Ave Maria] カトリック聖歌集 628 番 J.アルカデルト作曲

Ave, Maria, gratia plena, Dominus tecum.

(めでたしマリア 恩恵に満ちたお方 主はあなたとともに居られます)

Ave, Maria. Benedicta tu, benedicta tu in mulieribus,

(めでたしマリア あなたは祝されたお方 女の中で祝されたお方)

et benedictus fructus ventris tui Jesus.

(またご胎内の御子イエスも祝されたお方です)

Sancta Maria, ora, ora pro nobis, Sancta Maria, ora, ora pro nobis.

(聖マリア 祈りたまえ 祈りたまえ われらのために)

Sancta Maria, ora, ora pro nobis. Amen.

(聖マリア 祈りたまえ 祈りたまえ われらのために アーメン)

クリスマス・メドレー 第 2 集

[ひいらぎかざろう] 讃美歌第二編 129 16 世紀ウェールズの新年カロル “Deck the Hall with boughs of holly”

ひいらぎかざろう ファラララ ラーラ ラララ
暗れ着に着かえて ファラララ ラーラ ラララ
カロルを歌おう ファララ ラララ ラララ
楽しいこのとき ファラララ ラーラ ラララ

[ああベトレヘムよ] 讃美歌 115 番 カトリック聖歌集 655 番 19 世紀アメリカの曲:ブルックス作詞、レドナー作曲

1. ああ ベトレヘムよ などかひとり
星のみ匂いて ふかく眠る
知らずや今宵 くらき空に
とこよのひかりの 照りわたるを
2. ひとみな眠りて 知らぬまにぞ
み子なるキリスト 生れたもう
あしたの星よ うたいまつれ
「神にはみ栄え 地に平和」と

[もろびとこぞりて] 讃美歌 112 番 カトリック聖歌集 654 番

- | | |
|---|--|
| 1. 諸人こぞりて 迎えまつれ
久しく待ちにし 主は来ませり 主は来ませり
主は 主は来ませり | 2. 平和の君なる 御子を迎え
救いの主とぞ ほめたたえよ ほめたたえよ
ほめ ほめたたえよ |
|---|--|

※1836年、アメリカの宗教音楽家L.メイスンが、ヘンデルの《メサイア》の合唱部分の旋律を抜き出して編曲したもの。本来は、賛美歌の父と呼ばれるイギリスのI.ワッツの“Joy to the world”(民みなよるこべ)に付けられた曲だがイギリス人牧師P.ドットリッジが1735年に書いた“Hark, the glad sound!”(諸人こぞりて)の歌詞で広く歌われている。

[やみじになやめる] カトリック聖歌集 102 番

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 闇路に悩める エワの子我等は
救いの御光 したいてさまよう | 2. 涙の谷より いまぞ待ち望む
我が慰め主 とく来りたまえ |
|-------------------------------------|-----------------------------------|

[来ませ救い主] カトリック聖歌集 105 番

来ませ救い主 罪とがに沈む よるこべ諸人	憐れみたまいて われを助けませ 主は来たりたもう
----------------------------	--------------------------------

クリスマス・メドレー 第3集

[まきびとひつじを] 讃美歌 103 番、カトリック聖歌集 653 番 17世紀以前からの英国のカロル “The first Noel”

- | | |
|--|--|
| 1. 牧人 ひつじを 守れるその宵
たえなるみうたは 天よりひびきぬ
喜びたたえよ 主イエスは生れぬ | 2. 仰げばみ空に きらめく明星
よるひるさやかに 輝きわたれり
喜びたたえよ 主イエスは生れぬ |
|--|--|

[あめのみつかいの] カトリック聖歌集 121 番、讃美歌 106 番 (荒野のはてに)
フランスの聖歌 “Les anges dans nos campagnes”

- | | |
|---|--|
| 1. 天のみつかいの うた声ひびく
星かげさやかな まき場の空に
Gloria in excelsis Deo | 2. 貧しいうまの 恵みのみ子に
ほめ歌ささげて よろこび歌う
Gloria in excelsis Deo |
|---|--|

[しずけき] カトリック聖歌集 111 番、讃美歌 109 番 (きよしこの夜)

- | | |
|---|---|
| 1. 静けき真夜中 貧しうまや
神のひとり子は み母の胸に
眠りたもう やすらかに | 2. 静けき真夜中 光さして
清らにほほえむ 救いのみ子を
たたえ歌え みなともに |
|---|---|

※1818年、オーストリア・ザルツブルグ近郊の村で、クリスマスの直前に村の教会のオルガンが壊れてしまいました。そこで神父のヨセフ・モールとオルガン奏者のフランツ・グルーバーはギター伴奏で歌えるクリスマス・キャロルを作詞・作曲しました。この歌が今日世界中でクリスマスに歌われる「きよしこの夜」です。原曲はドイツ語で Stille Nacht, heilige Nacht! (Silent Night, Holy Night!)

[きたれ友よ] (Adeste) カトリック聖歌集 113 番、讃美歌 111 番 (神の御子は)

- | | |
|---|---|
| 1. きたれ友よ すべての友
喜びつどえ ベトレヘムに
み使いの 王なるみ子を
来たれ捧まん 来たれ捧まん
来たれ捧まん わが主を | 2. Adeste fideles, laeti triumphantes,
Venite, venite in Bethlehem!
Natum videte, Regem angelorum
Venite adoremus, Venite adoremus,
Venite adoremus Dominum |
|---|---|

※アデステで知られるこの曲は13世紀から伝わるものであるが、イギリスのJ.F.ウェイドが1751年に現在の形で発表した。イギリス人のカトリック聖職者F.Oakeleyによる次の英語訳で世界に広まった。
O come, All ye faithful, joyful and triumphant. O come ye, O come ye, to Bethlehem.
Come and behold Him, born the King of angels; O come, let us adore Him, Christ the Lord.

合唱団メンバー募集

2011～12年 練習予定曲目

J. S. バッハ「ミサ曲 口短調」 BWV232 ほか

浜松バッハ研究会

練習日：毎週土曜日 19:00～21:30

会 場：積志公民館

会 費：月額 2,500 円

連絡先：河野周平 ☎053-585-3364

<http://music.geocities.jp/hamamatsubach/>

豊橋バッハアンサンブル

練習日：毎週金曜日 20:00～22:00

会 場：新川小学校

会 費：月額 2,500 円

連絡先：安井研一 ☎0532-47-0676

<http://www.geocities.jp/bach0532/>

このコンサートに ご協賛・ご支援いただいた方々

カトリック浜松教会の皆様

山之内 公司 様

岡部 比呂男 様

川島 順三 様

服部 千春 様

松井 睦夫 様

江塚 浩久 様

小原 雅子 様

臼井 溢 様

山本 和子 様

児玉 久司 様

安田 友昭 様

篠原 一憲 様

皆さまの温かいご支援に対し 心から御礼申し上げます。

芸術科を有する中高一貫の進学校

中学入試・高校入試(普通科・芸術科)個別相談会

12/24(金)、12/25(土)、1/5(水)、1/8(土) 9:00～12:00

適宜事務室にお越し下さい。

芸術科(音楽・電子音楽・美術・書道)受験相談会 1/8(土)



浜松学芸中学校・高等学校
電話 053-471-5336

有限会社

秋山損害保険事務所

〒432-8013 浜松市中区広沢 3 丁目 27-7

TEL 053(453)1873

FAX 053(453)1855